健康ひとくちメモ

# 日本のワクチン事情①

日本では、ここ１年くらいの間に、新しく接種可能になったワクチンが３種類もあります。ご存知でしょうか？

さて、これってすごい事？残念ながら、実は、世界から遅れていたワクチンがやっと使えるようになっただけで、ワクチン後進国の日本がやっと先進国レベルに近づくきっかけができただけなのです。「ワクチンギャップ」という言葉があります。欧米ですでに承認・使用されているワクチンが日本ではなかなか導入されず、また、既存のワクチンも含めて、日本は公的な費用負担による「定期接種」のワクチン数が少なく、自己負担による「任意接種」が多数あります。世界の標準と大きく異なるこの現状がワクチンギャップと呼ばれているのです。

なぜこのような事になってしまったのか？原因はいろいろあると思いますが、保護者の方のワクチンに対する認識不足や誤った認識も一つの原因と考えられます。日本では、ワクチンの接種による利益よりも、その副反応への懸念が大きすぎる傾向があります。国や医師が正しい情報をどんどん発信することも大切ですが、情報を受ける側ももっと積極的になってほしいと思います。日本で定期接種化されている小児に対するワクチンは、５種類です。ただこれも以前のように集団接種するのは「ポリオ」だけですから、その他のワクチンは保護者の方がきちんと計画を立てて、順調に受けられるようにしないといけません。定期接種に含まれていながら国が接種を積極的に勧めなかった「日本脳炎ワクチン」については、平成22年４月１日付けで、第１期の標準接種期間に該当する方（平成22年度においては３歳のお子さん）に対して、積極的勧奨が再開されました。これも必要なワクチンが副作用が出た事で見送られてしまった後、日本脳炎の国内での発症が確認され、新たなワクチンを使った接種がやっと再開されるのです。ワクチンの副反応を怖がるより、かかることによっておこる重症化や合併症の怖さを知るべきだと思います。新たに接種可能になったＨｉｂワクチン、小児用肺炎球菌ワクチンで、小児の細菌性髄膜炎の約８割は予防できるのです。任意接種で自己負担は大きいですが、接種で守れる命は、ぜひ守ってあげたいものです。多くの保護者の方が接種の必要性を理解することで、公的補助を受けられる環境作りもしやすくなると思います。分からないことはかかりつけのお医者さんに相談してください。

文　中川医院　中川良英先生